

I N T E R V I E W

ウクライナで11歳から日本語を学ぶ

北海道に来たとき、どんな印象を持ちましたか。

ウクライナと北海道は気候が似ていて、自分のふるさとを思い出しました。ウクライナと同様、北海道は札幌や旭川の都市部以外は人口密度が低く、特に札幌の南区の山に囲まれた地域、農業地域の風景はウクライナによく似ています。

高校ではどんなことを学びましたか。

一般教科に加え、航空関係のことも多く教わりました。一般教科は他の高校と同じように数学や地理などを勉強しますが、航空関係のことは、この学校で



1年生時のフェーディアさん(左から2番目) 令和5年10月

ウクライナを懐かしく思いますが、でも国を出て冒険することも私のやりたいこと

しか学べないことだと思います。私のクラスで特に集中的に教わったのが、キャビンアテンダントとグランドスタッフの仕事についてです。

印象に残っている授業はどれですか。

モックアップ（飛行機の実物大模型）での実習は、サービスの仕方や緊急時の対応などを、本物の飛行機と同じ環境で学べたので強く印象に残っています。

では、一番難しかったものは。

敬語の使い方です。大学に入学するにあたり、電話でいろいろな手続きをしましたが、電話で話す言語と実際に話す言語は全く別物で、まだまだ学ぶ必要があると感じました。日本に来て苦労したことは、どんなことですか。

一番苦労したのは、やはり言語の壁ですね。ウクライナで日本語を勉強していたので大体の漢字は読めましたが、書くことは苦手で、日本語で行われる授業を日本人の生徒と同じように受けるのは大変でした。何歳のときから、日本語の勉強をしていたのでしょうか。

「日本＝航空業界」が私の持つイメージ

オレナさんの学生生活を振り返ってください。

高いレベルの教育を受けられ、仲の良い友達もたくさんできました。ウクライナでは高校を卒業して仕事をしていたので、初めての大学校での学生生活でした。第2の青春を過ごせましたし、日本に来てもう一つの人生が始まったと実感しています。来日して4年になります。もっと長くいる感じがします。本当にいろいろな経験ができたので。

航空業界に就職するイメージは、以前からあったのでしょうか。

興味はあったのですが、難しそうだなとか、敷居が高いから入れないだろうなと思っていました。日本で1年半くらい過ごして、進路について考えていたとき、「この学校に入らないか」と先生たちが声をかけてくれたんです。そのときは日本語のスキルも高くなく、自信が持てませんでしたが、それでも先生たちのサポートのおかげで、次第に「できるか



千歳市民納涼盆踊り大会にて 令和5年8月

も」と思えてきました。

日本の航空業界の印象はいかがですか。日本のサービス文化のおかげで、航空業界のサービスも素晴らしいと感じています。日本は、海外からは第一に「アニメ」や「東京」のイメージがあるかもしれませんが、私の日本のイメージは航空業界のイメージです。日本のサービスを学び、「おもてなし」を自分もできるようにしたいと思っています。

オレナさんは、すでにJALスカイ札幌に入社し、勤務していますね。

入学前にいくつかJALのイベントに参加していたので、知り合いが多く、いい印象ばかり持っていました。私もここで働きたいと思っています。

PASKO FEDIR

パスコ・フェーディアさん
日本航空高等学校 北海道校 卒業

2023年4月に千歳に避難。日本航空学園新千歳空港キャンパスで3年間学ぶ。

11歳のときからです。日本のアニメが好きなので、私のいとこが1年間、京都の大学に交換留学していました。こうしたきっかけから「日本で何か面白いことをやりたい」と思い、日本語を勉強しようと思いました。

ウクライナが置かれている現状を、どのようにお考えですか。

私は首都キーウの出身で、私がいたときも大変でしたが、今はもっと大変です。外の気温はマイナス20度にもなる一方で、ロシアの攻撃で電力と暖房が止まり、家の中よりの外のテントにいる方が暖かく感じるくらいです。ウクライナには家族や友人もいますし、懐かしく思うこともあります。国を出て冒険して、ほかの地域で頑張ることも私のやりたいことです。日本に来てよかったと思っています。

高校卒業後は、どんなことを頑張りたいですか。

立命館大学衣笠キャンパス（京都市）の国際関係学部に入學予定で、国際政治や歴史の勉強を頑張りたいです。京都市はキーウと姉妹都市なので、それも入学理由の一つです。

働いてみてどうですか。

雪が降ったら忙しくなるし、遅番があっても最初は慣れるのが大変でしたが、楽しく働いていますし、安全に関する知識など多くのものを得られました。冬季の新千歳空港の国内線は、外国人が多くなります。英語が話せることがとても役に立っています。

改めて、受け入れてくれた日本航空大学校に対してはどんな思いですか。

最初は日本について何も知らなかった。「怖い」という気持ちがありました。先生たちがずっと一緒にいてくれて、わからないことも親切に教えてくださったので、すぐにこの学校が好きになりました。今では家族みたいな存在だと思っています。

故郷ウクライナについて、思いを聞かせてください。

ウクライナには友達もたくさんいるし、今の状況が早く終わってほしいと思います。毎日気がかりではありますが、帰る予定はありません。日本で仕事を始めたばかりだし、私はチャレンジが好きなので、この日本でできることをまずは頑張りたいです。

先生たちが親切に教えてくれて、すぐにこの学校のことを好きになりました

YASYNSKA OLENA

ヤシンスカ・オレナさん
日本航空大学校・北海道校 卒業

2022年6月、千歳に避難（日本航空学園新千歳空港キャンパスにて受け入れ）。日本語の勉強や国際交流を通して、2024年4月に日本航空大学校・北海道校キャビンアテンダント・グランドスタッフ科に入學。



2月には高校と大学校の卒業式が行われ、二人に卒業証書が授与された。フェーディアさんは、4月から立命館大学に進学予定。オレナさんは昨年10月、株式会社JALスカイ札幌に早期入社し、グランドスタッフとして活躍中。

異国で学び、次のステージへ

日本航空学園に在籍する二人のウクライナ人

ロシアの侵攻による戦禍を逃れ、ウクライナから来日したフェーディアさんとオレナさん。受け入れ先の日本航空学園で学び、この春、それぞれ高校、大学校を卒業した。新たなステージへと進む二人に、日本での学生生活の振り返りや故郷への思いなどを語ってもらった。